

# フォルトエイツシモ

## エッセンシャルワーカーを支える 確定給付企業年金

2018年4月にベター・プレイスが母体となって設立した確定給付企業年金（DB）の「福祉はぐくみ企業年金基金」。介護や福祉、保育の現場で働くエッセンシャルワーカーを加入対象者とする他に例を見ないDBだ。これまでのDBにはなかった「休職時一時金」や、システムで運用管理を行える仕組みが導入されている。将来の資産形成に向けて「エッセンシャルワーカーにも企業年金を活用してほしい」と呼びかける森本新士社長に、同基金の展望を聞いた。

### 企業年金を活用できない エッセンシャルワーカー

——エッセンシャルワーカーを加入対象者とする「はぐくみ基金」はどのようなDBか

「はぐくみ基金」は、保育士や介護士などのエッセンシャルワーカー（日常生活に欠かせない仕事をする人々）をターゲット

にしたDBだ。「人生100年時代」を迎え、将来に向けた資産形成の必要性がこれまで以上に増すなか、老後資金を積み立てる企業型確定拠出年金（DC）やDBの役割も従来以

ベター・プレイス 社長  
森本新士



上に高まっている。

しかし、既存のDBやDCは、給与水準が低い人や資金繰りに余裕がない中小企業にとって適した資産形成手段になっていない。エッセンシャルワーカーは給与水準が高いとはいえず、時には資金面で窮することもあるが、DCには「60歳まで引き出せない」という制約がある。過酷な労働環境を背景に他業種と比べて退職も多いエッセンシャルワーカーは、次の職が見つかるまでの生活資金の工面も大事な課題となりがちだが、こうした点でも引き出しに制限があるDCは適した資産形成手段とはいえない。

その点、DBは積み立てを行っていた会社を退職すれば、積立金を受け取ることができる。だが、やはり出産や育児などでお金が必要になる退職時には、積立金を受け取ることができない。エッセンシャルワーカーは女性の割合が高く、出産や育児などのライフイベントでは休職を余儀なくされることが多いが、DBもまた、そうした人たちの生き方に合った商品設計になっていないのが現実だ。

また、従業員が受け取る年金給付額はあらかじめ約束されるため、運用成果が給付

額に満たない場合には会社が追加で拠出を行わなければならない、財務余力に余裕がない中小企業ではそもそもDBの導入が進んでいない。結局、エッセンシャルワーカーの間では、資産形成のために企業年金を利用する流れがほとんどないのが現状だ。

そこで、われわれはエッセンシャルワーカーが加入しやすいDBとして、はぐくみ基金を2018年4月に立ち上げた。安定的な運用を志向することで中小企業の積立金負担が生じにくい設計としているほか、退職時にも積立金を引き出せる点が特徴だ。

—— 中小企業の積立金負担が生じにくい安定的な運用とは？

はぐくみ基金の運用は、個人年金や企業年金資産などを合同で一つの勘定で運用する「生命保険の一般勘定」を中心に行っている。一般勘定は、生命保険会社が元本と一定の利率を保証しているため、一定の利回りであれば、加入企業が積み立て不足の負担を強いられる恐れは限りなく低い。はぐくみ基金の20年度実績の利率は年0.4%程度だが、基金への加入者が増えて運用の幅を広げる余力が出てきたら、私募リートなどのオルタナティブ資産をポートフォリオに組み込んでリターンを増やしていきたい。

たい。私募リートは価格がマーケットに連動しないため、安定した運用が期待できる。最終的には年1%以上のリターンにしていきたいつもりだ。

## 運用管理をすべてシステム化、他の金融機能も随時追加

—— 掛け金の変更や積立金の引き出しなど、加入者の運用管理はどのように行うのか

すべて専用システムの「はぐONE」で行える。従来のDBの契約手続きは、紙でのやり取りがベースになっており、手続きに多大な時間を要していた。はぐONEでは、パソコン、スマートフォンからいつでも運用成績を確認できるほか、掛け金変更や諸届けも行うことができる。

さらに、個人が選択した掛け金は給与ソフトに簡単に反映できるため、企業も情報管理の手間を省くことができる。これまでも掛け金のシミュレーションをシステムで行っているDBはあるが、実際に掛け金の変更や諸届けをシステム上で行うことができるのは、はぐくみ基金が業界で初めてだ。これまでのDBは運用状況を確認しづらく、加入者が商品内容をよく理解しないまま、運用をほったらかしにしていることが

少なくなかった。システムを通じて加入者に「企業年金」を身近に感じてもらうことで、運用に対する意識も強まるはずだ。

はぐONEには今後、運用管理以外のメニューも充実させていく。例えば、給与の前払いやBNPL（後払い決済サービス）といった金融機能を加えていきたい。

当社がはぐくみ基金の加入者約400人にアンケート調査を行ったところ、住宅ローンや自動車ローンなどの融資を受けている人が250人程度おり、そのうち6割がキャッシングやリボルビングなどで1回5万円以下の借り入れを行っていた。こうした人たちの生活資金をいろいろな面から支援する金融サービスには、非常に高いニーズがあるだろう。まずは、はぐONEを通じて、「申し込みの翌日には5万円程度の給与前払いができる」といったサービスを早期に実現する。

## 地域金融機関と連携してはぐくみ基金を地方へ

——7月に静岡県静清信用金庫と業務提携を行っている。どのような取り組みを進めていくのか

DBやDCの普及において、地域金融機

関の役割は重要だ。厚生労働省の調べによると、従業員100人未満の中小企業でDBまたはDCを導入している企業は14%にとどまり、300人未満まで広げても34%しかない。全国では7割の企業が従業員300人未満の中小企業（注）だが、地方ではこの割合が87%にまで高まる。地方に比べればいくほど、公的年金を補完するDB・DCへの加入者が少ないことになる。

こうした問題の解決に向けて、金融機関との連携を積極的に行っていく。すでに静清信用金庫以外にも、遠州信用金庫や地銀5行とビジネスマッチングを行っている。そのうち地銀1行からはすでに約20社の紹介を受けて7社と基金契約に至っており、遠州信金からの紹介でも3社との契約実績がある。

現在、はぐくみ基金の加入者数は約3万2000人だが、これを25年度中に20万人まで拡大させたい。保育業界と介護業界を合わせた労働人口は約300万人。この業界で最低でも10%近いシェアを占めることが当面の目標だ。

また、基金への加入者を増やすこと以外に、データを活用した金融包摂にも取り組む。当社には、利用者の給与データや勤怠

データなどの情報が多く集まる。それらの情報を銀行に提供することで、欠勤などなく真面目に働いている人に、より低利なローンの提供ができるようにしたい。通常、銀行のフリーローンは3〜15%くらいの金利で提供されているが、金融機関が感知できない信用情報があれば、より低利率でローンを組むことが可能はずだ。

（聞き手・本誌 村田佑太）

（注）業種によつて中小企業の定義となる従業員数は異なる。



**もりもと しんじ**  
アリコジャパン、スカンディア生命保険を経て、07年2月にかいたく投信（現クローバー・アセットマネジメント）を創業。同社売却後、11年10月にベター・プレイス創業。日本証券アナリスト協会検定会員、1級DCプランナー（企業年金総合プランナー）。10年9月に中央大学大学院修了（ファイナンス）。